

## 留学報告書 ～自分を変えた留学～

ペンシルバニア・インディアナ大学  
外国語学部生（中期）

私は、2023年の8月から12月まで、アメリカのペンシルバニア州にあるインディアナ大学に留学をしていました。初めての海外渡航だったので、自分がアメリカの文化に慣れることができるのかなどの不安が募ると同時に留学での英語上達や異文化の体験に期待もありました。ですが、この留学で私は英語だけでなく、たくさんのことを学べ、自分にとってかけがえのない留学となったので、自分が何を学び、何を体験したのかを報告したいと思います。

アメリカでの生活は、日本との生活と違い自分にとって全て新鮮でした。最初の1,2週間は、welcome partyという留学生歓迎会のような大学が主催しているイベントに参加し、そこでたくさんの留学生の友達と知り合うことができました。例えば、中国の留学生とは日本の音楽やテレビ番組の話をし、インドの留学生とは、文化について話し合いました。ちょっとした会話だけでも文化の違いに気づくことができ、とても楽しむことができました。ですが、楽しいことばかりではなく、ネイティブの英語は、早すぎて聞き取れないことが日常茶飯事で、とても辛かったことなのを覚えています。相手の話している内容を聞くだけでなく、自分の言いたいことを英語でまとめることができることができず、最初の1,2ヶ月は、精神的にきつかったことを覚えています。そのため、留学期間中では、YoutubeやPodcastを使いながら勉強をし、同じ授業を取って仲の良かった台湾人の友達と話すと、学んだフレーズを使って、自分の勉強したことをアウトプットし、自分の英語力に自信を段々とつけていきました。

アメリカについてから数日が立ち、授業が始まりました。インディアナ大学では、留学生が英語を勉強するためのALIコースがあり、私は、そのコースを受講していました。全部で6つの授業を受講していて主に、プレゼン、ライティング、ディスカッション、リーディングの授業を受けていました。日本の授業に比べると、クラスメートとのグループワークやディスカッションの時間が多くあり、そのおかげでクラス内での友達がたくさんでき、その友達と授業終わりにご飯を食べ、ビリヤードやゲームをし、親睦を深めていきました。自分のESLのクラスには多くの留学生がいて、台湾人、日本人、サウジアラビア人、と知り合うことができました。授業のディスカッションタイムでそれぞれの価値観や文化の違いを知ることができ、例えば、授業の課題として、二人グループを作り、社会問題についての広告を作り、5分間プレゼンをする課題があり、私は、サウジアラビア人とペアを組むことになりました。何について話すか、どのようにデザインし、広告を作っていくか、などを放課後や授業合間に集まり、話し合いましたが、その時にも自分たちの文化について話し合うことができました。サウジアラビアの文化では、指に指輪をつけていて、なぜその指輪をつけているのかを聞いてみたところ、自分が不安や緊張を感じたとき、その指輪についている数値を図る機能を使い、神がどのくらい近くににいるのかをはかってくれ、自分を安心させてくれる指輪をつけていて、これも宗教観の違いであり、たくさんの留学生が集まるALIコースを受講したからこそ、できた経験であり、留学前はアメリカ文化と英語しか学ぶことができなかつたと思っていましたが、多くの国の文化を知ることができ、授業のおかげで期待以上のことを学べました。

インディアナ大学の魅力は、たくさんのイベントが毎週開催されることです。例えば、毎週金曜日にはビンゴゲームが開催され、様々なクラブのイベントが行われ、充実した1週間を送ることができます。私の場合だと、ビンゴと日本語クラブに授業を一緒に受けている友達と訪れて、いろんな国籍の人と和文化を学びました。日本語クラブでは、台湾人と一緒におにぎりやたこ焼きを作ったり、折り紙を折ったりしました。他にも、アウトドアクラブ

というクラブに参加して、スポーツをやりました。

毎週開催されるビンゴゲームでは、たくさんのアメリカ人が集い、とても盛り上がりやすく、例えば、ゲームが始まる前からみんなでビンゴ！！と叫び、同じタイミングで二人ビンゴになったらいきなりダンスバトルが始まるなど日本ではありえないビンゴを楽しむことができました。このビンゴ大会では、テーマが毎週ごとに決まっており、例えば、Netflixがテーマの時は、映画のDVDや映画に関するグッズなどが景品となっており、ハロウィンがテーマの時は、全員が仮装をして参加をしていて、私は、スターウォーズの仮装をしたのですが、多くのアメリカ人に声をかけてもらい、写真を一緒に撮り、お互いの仮装について話し合い、自分の好きな映画やキャラクターについて熱く語りあえたことは、とても楽しく、また新しくアメリカ人の友達を作ることができ、とても嬉しかったことを覚えています。

友達がきっかけで、Japaso という日本文化を楽しく学ぶ活動をするクラブに通うことになったのですが、たくさんのことに驚かされました。まず、そのクラブにアメリカ人だけでなく、台湾人、インド人などのたくさんの国籍の生徒がクラブ活動に参加されていたことです。アメリカ人は、日本のアニメに興味を持っていて、私もアニメが好きだったので、好きなアニメについて話すことが多くありました。また、邦楽も評判が高く、そのクラブ活動で一度カラオケイベントがあったのですが、一人のアメリカ人は、ミセスグリーンアップルの新時代と Yoasobi のアイドルを歌っていて、日本語の曲なのに、流暢に歌うことができている、とてもびっくりしました。そのアメリカ人とお話をしてみたら、以前、沖縄に3ヶ月間留学経験があるらしく、そのため、日本語が流暢に話すことができるとおっしゃっていました。その他にも、日本のポッドキャストや Youtube を視聴している人も出会うことができ、日本に興味を持ち、独学で日本語を学んでいることは、自分をとても驚かせてくれて、日本が世界的に好かれている国のだろうと思いました。

もちろん楽しいことばかりではなく、辛いこともたくさんあり、授業が始まったばかりのときは、英語も話せないだけでなく、聞き取れもせず、クラスメートにいつも迷惑をかけてしまい、直接英語で何を言っているのか全く分からないと言われることは、日常茶飯事でした。留学前にLTを人よりもたくさん取って、スピーキングの勉強もし、自身もあったので、こうやって直接言われるとかなり精神的に響き、辛かったのを覚えています。そんな時、自分を支えてくれたのは、一人の日本人の大学院生とある一人の台湾人の友達でした。アメリカに到着したばかりのころ、大学のスタッフが Walmart まで送ってくれたのですが、その時に Vincent というある一人の台湾人と出会いました。Walmart に行く最中、出会い話をし、意気投合し、その時の買い物も一緒にし、それからのイベントやオリエンテーションも一緒に過ごしました。辛かった時もおすすめの勉強法なども教えてくれて、彼の友達なども私に紹介してくれて、段々と繋がりが増えていき、自分を助けてくれる人も増えていきました。例えば、ルームメイトがいつも夜中に音楽を流し、眠れないことを友達に話したら、自分と同じ思いをしていて、どのような対処しているのかを教えてくれ、それ以外でも自分の知らなかった大学の設備やおすすめの方法などもすべて自分に教えてくれて、この留学生活の中で台湾人は、心の支えの一部で今でも感謝しています。

自分の帰国日が近づいてくると、クラスメートの友達が帰国前にパーティーを開いてくれ、トランプやこの留学生活で思ったことを赤裸々に話しました。そのパーティーの途中で友達がギターを貸してくれ、みんなの前で弾き、久しぶりにギターを弾いたので、あまりうまくは弾けなかったのですが、みんな自分の演奏をほめてくれました。帰国日当日は、出発前に友達が集まってくれて、手紙やプレゼントを自分にサプライズで渡してくれて、その後、みんなで集合写真を撮り、お別れをしました。空港内で手紙を読み、一人ひとりのメッセージが留学での出来事を思い出させてくれ、まだアメリカにいたい、アメリカでまだまだ思い出と一緒に作りたいたいと思ってしまい、涙が出そうになりました。

この留学では、英語だけでなく、異文化、人の優しさを学び、今自分が何をやるべきか、何が足りないのを学ぶことかを深く学ぶことができました。まだまだ自分の未熟な部分をこれからの人生で学び、また違う国に訪れ、異文化を学びたいと思いました。

